
 学 会 記 事

第 267 回新潟循環器談話会

日 時 平成 23 年 6 月 11 日 (土)
午後 2 時 30 分～6 時
会 場 新潟グランドホテル 5 階
波光の間

I. 一 般 演 題

1 HDL コレステロールと高血圧の逆説的關係

小田 栄司
たちかわ総合健診センター

【背景】メタボリック症候群の各危険因子は互いに集積する傾向があるが、HDL コレステロールと血圧との間には相関がみられない。

【対象】健常な日本人男性 1803 人 (49.9 ± 9.0 歳) 女性 1150 人 (49.5 ± 9.0 歳)。

【方法】年齢、BMI、空腹時血糖、中性脂肪、高感度 CRP、LDL コレステロール、糖尿病、メタボリック症候群、喫煙、飲酒、身体活動で補正した HDL コレステロール値に対する高血圧のオッズ比を計算した。

【結果】HDL コレステロール 1mg/dL 上昇に対する高血圧のオッズ比 (95 %信頼区間) は男性 1.03 [1.02-1.04] ($p < 0.001$)、女性 1.03 [1.01-1.05] ($p = 0.002$) であった。

【結論】健常日本人において、HDL コレステロールと高血圧の間に逆説的な関係が認められた。

2 肺がん検診の縦隔異常陰影を契機に発見された嚢胞性中膜変性による右内胸動脈瘤の 1 例

大倉 裕二・川崎 隆*・樋浦 徹
岡田 義信・齊藤 寛文**

県立がんセンター 内科
同 病理部*

厚生連新潟医療センター心臓血管外科**

症例は 61 歳、女性。肺がん検診の胸部 X 線写真で右上縦隔の異常陰影を指摘され当院に紹介された。PET-CT にて胸部の悪性腫瘍は除外されたが、血管病変が疑われたため、胸部大動脈造影を施行。右内胸動脈瘤と診断された。動脈瘤は 21 × 23mm あり、末梢側の内胸動脈は数珠状に迂曲していた。過去の胸部 X 線写真と比較したところ増大傾向を認めたため、動脈瘤は外科的に切除された。病理所見では瘤部にも非瘤部の内胸動脈にも粥状硬化はなく、嚢胞性中膜変性が認められた。右内胸動脈瘤はまれな疾患であるが、嚢胞性中膜変性によるものは極めてまれであるため報告した。

4 急性心筋梗塞後心室中隔穿孔に対し、two patch (one for closure, one for exclusion) 法にて手術を行った 1 例

福田 卓也・曾川 正和・諸 久永
田山 雅雄*

済生会新潟第二病院心臓血管外科
同 救急科*

【背景】急性心筋梗塞後の合併症で心室中穿孔があり、その手術は、1977 年 Dagget らが心室中隔にパッチを縫着する方法を、1990 年 Komeda らが infarction exclusion 法を報告したが、その手術死亡率は現在でも 19 %～40 %と不良である。

また、シャントの遺残例の報告も多く、より良い手術法の開発が望まれるところである。我々は、2 枚のパッチを用いて、1 枚は、直接心室中隔穿孔部を閉鎖し、2 枚目は、1 枚目のパッチより広くし、infarction exclusion を行い、Dagget 法に基づいて、パッチを左室切開部閉鎖時に一緒に縫合する方法を行ったので報告する。この方法は、2004